

繪入

水

夜

嵐

物

語

古



小夜嵐卷之才六



才六六 地獄合戦の事

才六七 野合切あつ責

才七八 闇魔汰責

才八九 雷雲鬼が魚口

才三十 曾我八郎の珍類

小夜嵐卷之才六

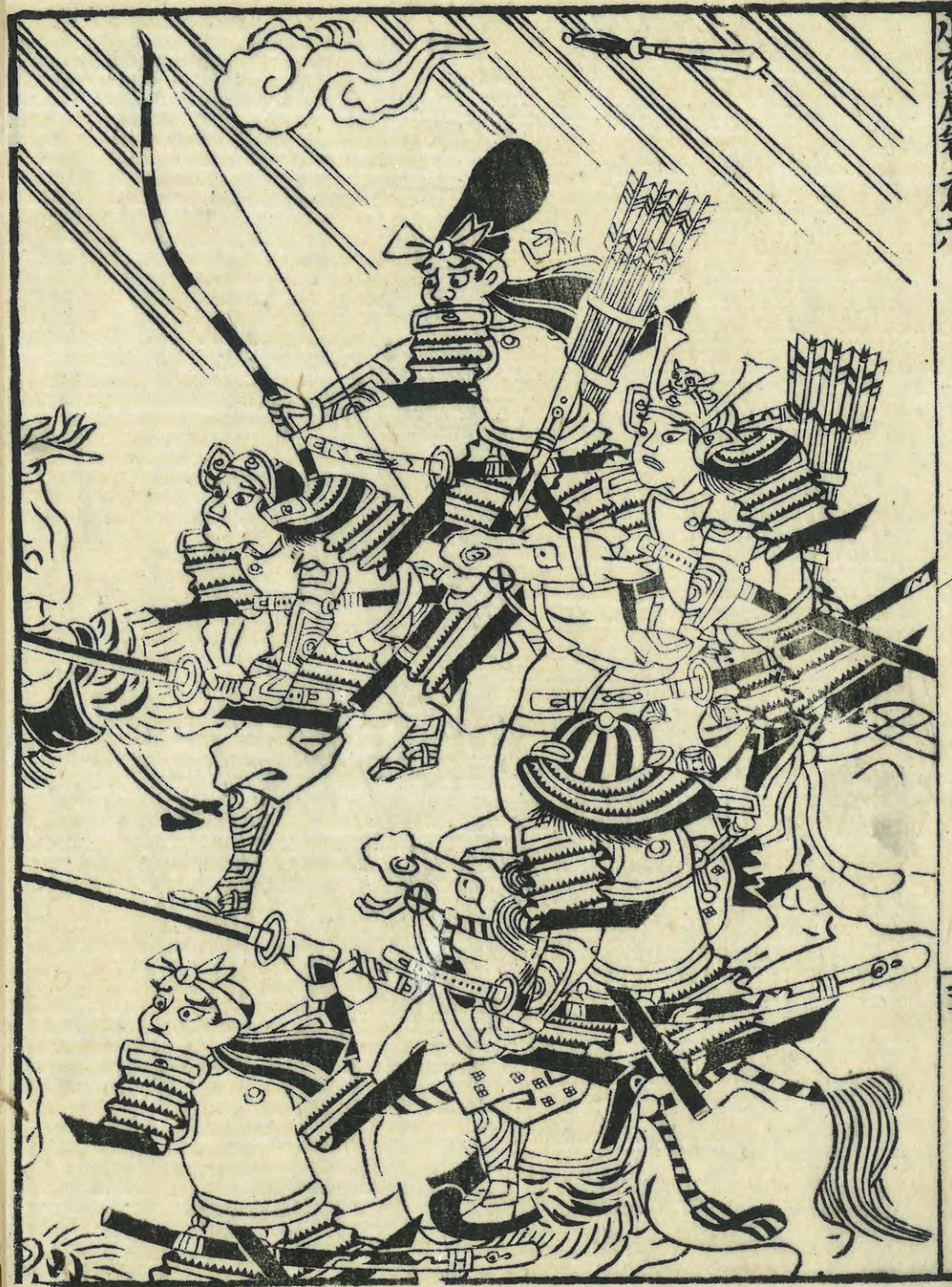
才六六 地獄合戦



征夷將軍朝日又ありて思入り出馬とのりりど
ひ持論王の文敏と見えありて徳侯よひひあが
せける。闇王大敵の目殺さるるまじくまじくと
論王の慈悲とみく目殺とのどよふ友とこそ
の故口傷りてくまじく不義人とうてその悪
と散せざらんか木石よかまじりあられがば
わらん鬼敷汁よ鬼女うらぶかやいまはま
らしめやうらぶがえんしおらよひいおておせ
されば新田曰而忠徳とくみおくしられけお

後心少く人ごし。それゆへに後...
かして... せ... ぬ...
と... 微塵の...
極... 愚...
や... ぬ...
ア... ぬ...
し... ぬ...
と... ぬ...
枕... ぬ...
と... ぬ...

...や... 軍...
鬼... ぬ...
... ぬ...
あ... ぬ...
飛... ぬ...
... ぬ...
又... ぬ...
わ... ぬ...
お... ぬ...
友... ぬ...



人くよの藤田善清正清長田の良茂四の善清藤原
 平実伊沢小孫寺原多と良茂名長野と云々長牛
 の新友列當さひりりこころ子新友入新友六次見
 一系いづれ小笠原法行の冠若昌義その子太師
 忠義茂田加賀頼毛子系の助経流相子二良成
 流金子十而家忠筒井法又とされうしてし
 この強若百武拾万彦父子一なりげいどからせ
 ち由小平親と信門の教万騎とて卒して二百三
 十六らうくとめりりこころわ焼多て多きおら
 ごととゆてふ家友獄卒た回とてさくらん東あは
 うあひあはとよひまきとのまごうくげうの

ひくもまといげぬかふいあう一張よ入鬼之鬼ら
 けさ矢一物とうもひあひくさうひよわてま
 つしらのうとてふごこいひんをれをまより火端
 ととあらあ凡とつれけ人のまもこととらうはん
 ちりりしとて罪人のあやしけり甲とらうら
 燈とともりきれとてれ矢しおふ中び織乃
 ぶみかしてゆとて自由自在とてさうく鬼とら
 かひひもさぬとあれど純正のうとてさう
 かく決凍きの燈とてふひさしけさおりの
 くらせり道とてりりやもさぶんのげあいかれど救
 ううもさるゆとて比獄のやくか猛火とて突とて

して是よのがり大比一血川がたりたり。てんは
 じわけの児ごしが尖あよかりし。てんは
 ちば後勢れとつて時つり。児と遊にすけし
 わり。三十余夜のもつひ。夜百七口つら。若大
 唐兵越のちひひ七十余夜よなづり。呉越ぬ
 國のそのあひで。七百里と角ごともり。その甲
 倉秘たふしりふふらりか。いかに。てんは
 云川わりの川。つかり。四十里あり。越王とせん
 兵王とこの戦か。わ。てんは。いかに。り。とあは
 よ。兵王とわら。は。越王と。と。げら。あ
 九年の。れ。合戦か。れ。人馬の。は。い。ご。わ。あ

初に越王うらまけい。多し。倉秘。ふ。因人と
 かり。あ。い。よ。に。兵。越。の。計。略。と。つ。て。西
 施と云。兵人越王にあり。と。呉王に。わ。て。け
 己。勾。踐。と。越。よ。く。倉。秘。の。和。と。と。て。范
 蠡。が。謀。と。つ。て。か。ぎ。あ。く。呉。王。と。う。ら。ま。け。い。勾。踐。に
 こと。と。速。く。あ。ま。ふ。か。と。ふ。范。蠡。の。功。名。留。安。後
 来。ら。ふ。ま。く。何。れ。か。の。功。名。を。遂。て。才。選。の
 夫。の。た。と。つ。て。勾。踐。の。四。勝。と。つ。て。あ。く。ふ。あ。ま。か
 六。湖。よ。う。う。あ。ま。さ。ら。り。わ。ら。い。に。は。あ。り。し。わ。り
 日。い。よ。い。又。保。元。の。は。り。せ。ま。い。れ。兼。之。よ。わ。り
 四。の。ご。や。あ。ま。さ。ら。り。今。の。代。に。は。越。王。の。功。名。

天よりまよふやせしものあり教下れ御政しふかたかりふ
 ありてかり天比國の安穩よは海乃波行るまら吹
 降るごとありふぬむつらむとやあつらふははり
 ういそかなりのこあるごふに代りありぬ磨のき荒
 業日なりあくの延表の聖付もかやしく人民悦い
 さいのふく業ことす地付かりあうれはこのふび電
 速めくは名大ゆか乃保元身永ら合戦終て
 てまこころいといごふあひ救夜乃ゆういふふ
 負名若天下にくれなれ源平れ強者一味あり
 てのまかれはいつか何て人も見れかりし面と
 ひく命こやうろくし去かう今夜あつらむ

かり敵ハ鬼かり大車にけられあふしとたり
 ありし尸にあふを同比鉄のも獲乃りあふ
 鉄鬼来と竜魔別しつふ二の鬼ありし大端
 中より花ぞ出大音勢あくつひまかひいふ
 罪人ごしものとうけ今夜一やそんは年長れ
 遊善乃四あ大五並態とくは大救まこまの
 心善徳のながれりしれもきれあむとくまの
 身事花代末中かり行乃子細のあつらむ
 中せこうん旭儀を罪れまじいかれはつらふは
 よかよびんいごしものまうにものせんそく大こ
 か何れかことには角又角よ見のまらむびり

れとく光らり口より焼く心火と映ひよまら
人馬火よとそれ申らうげんく何あよまら
れ深らうとらりかのかの物けかそことらひとく
けろびよあまらおれ村らうさんしつまふお入むり
よまらうよむしつらけびに志がわりら
あひとら物つまあやまら心電魔割がらわ
れまかこよら心とらうとらわけて
あよまら心獄草がらうべのまらといぬら
う何とあら流比のまらうらよらとらうとら
ひ心電魔割がらわといぬらうのわら
くれぞうらか心獄草がらうべと村わらとら

らと味らう人こらういひわらあくとら男
と流るれ怪人えらげまらゆんでらあくとら
あふが又と速あくと心電魔割がらわら
と村わらとく夫はがらまらとあら心とら
人こらうとそれ深らうが村らうとらとら
うらまらとらとらとらとらとらとらとら
こよすんでけかけらら由乃夫とらとら
まらとらとらとらとらとらとらとらとら
らとらとらとらとらとらとらとらとらとら
とらとらとらとらとらとらとらとらとら
とらとらとらとらとらとらとらとらとら



まゝに決見ありてぞとありてははぐいとくけ十三カ
うしうたうたうたしてたりとありてあはけなき前
こがやうとありて三鬼ありてははぐとあらはれか
ぬありてははぐとありてははぐとありてははぐとあり
とありてははぐとありてははぐとありてははぐとあり
りくうとありてははぐとありてははぐとありてははぐとあり
かゝし。指本とてなげわとてうとてうとてうとてうとてうと
猛火とらとてうとてうとてうとてうとてうとてうとてうと
かゝとてうとてうとてうとてうとてうとてうとてうとてうと
あし何とありてははぐとありてははぐとありてははぐとあり
死ぬとありてははぐとありてははぐとありてははぐとあり

才七 野合切の責

平名五の文敏へは是利治部大將の氏の一親
詮直を基氏稱村。篠川綿の小路大政大臣義政
た大臣もあふ今川義親た大臣義政た大臣義尚光
源院義輝仁本細川吉良の堂一久ふふと改宗松
八人六十の跡た中お義貞長男越守も二男。義
貞三男。養宗和木木次中三十三万跡。水糸
の一家。討房。討氏。恭。討。特頼。宗。討。相換。入。た。討。依
夜。太。秀。輝。が。存。流。法。真。守。秀。備。嫡。子。西。本。戸。太。良

二男恭衛(よしむね)三男(よしのぶ)右衛門(むね)四男(よしのぶ)五男(よしのぶ)六男(よしのぶ)七男(よしのぶ)八男(よしのぶ)九男(よしのぶ)十男(よしのぶ)十一男(よしのぶ)十二男(よしのぶ)十三男(よしのぶ)十四男(よしのぶ)十五男(よしのぶ)十六男(よしのぶ)十七男(よしのぶ)十八男(よしのぶ)十九男(よしのぶ)二十男(よしのぶ)二十一男(よしのぶ)二十二男(よしのぶ)二十三男(よしのぶ)二十四男(よしのぶ)二十五男(よしのぶ)二十六男(よしのぶ)二十七男(よしのぶ)二十八男(よしのぶ)二十九男(よしのぶ)三十男(よしのぶ)三十一男(よしのぶ)三十二男(よしのぶ)三十三男(よしのぶ)三十四男(よしのぶ)三十五男(よしのぶ)三十六男(よしのぶ)三十七男(よしのぶ)三十八男(よしのぶ)三十九男(よしのぶ)四十男(よしのぶ)四十一男(よしのぶ)四十二男(よしのぶ)四十三男(よしのぶ)四十四男(よしのぶ)四十五男(よしのぶ)四十六男(よしのぶ)四十七男(よしのぶ)四十八男(よしのぶ)四十九男(よしのぶ)五十男(よしのぶ)五十一男(よしのぶ)五十二男(よしのぶ)五十三男(よしのぶ)五十四男(よしのぶ)五十五男(よしのぶ)五十六男(よしのぶ)五十七男(よしのぶ)五十八男(よしのぶ)五十九男(よしのぶ)六十男(よしのぶ)六十一男(よしのぶ)六十二男(よしのぶ)六十三男(よしのぶ)六十四男(よしのぶ)六十五男(よしのぶ)六十六男(よしのぶ)六十七男(よしのぶ)六十八男(よしのぶ)六十九男(よしのぶ)七十男(よしのぶ)七十一男(よしのぶ)七十二男(よしのぶ)七十三男(よしのぶ)七十四男(よしのぶ)七十五男(よしのぶ)七十六男(よしのぶ)七十七男(よしのぶ)七十八男(よしのぶ)七十九男(よしのぶ)八十男(よしのぶ)八十一男(よしのぶ)八十二男(よしのぶ)八十三男(よしのぶ)八十四男(よしのぶ)八十五男(よしのぶ)八十六男(よしのぶ)八十七男(よしのぶ)八十八男(よしのぶ)八十九男(よしのぶ)九十男(よしのぶ)九十一男(よしのぶ)九十二男(よしのぶ)九十三男(よしのぶ)九十四男(よしのぶ)九十五男(よしのぶ)九十六男(よしのぶ)九十七男(よしのぶ)九十八男(よしのぶ)九十九男(よしのぶ)百男(よしのぶ)

味方(あか)と一人(ひとり)とせんぐらしていらざるとなぐさひ
なりし事(こと)のせんあざあまらざるとしりせせられし
直宗(なほむね)はありをれゆ後(ご)かりとて数(かず)万人(まんびん)まよゆ
楸(きゅう)はるれとてかつてはかきあつておごりせせぬ
ぬきぬとて切(き)らるゝ中(なか)とてかきあつておごりせせぬ
かきあつておごりせせぬとてかきあつておごりせせぬ
つらとてかきあつておごりせせぬとてかきあつておごりせせぬ
あまうつておごりせせぬとてかきあつておごりせせぬ
明寺(あきでら)入道(にゅうだう)頼(たの)みぬとて

世にびりつる川の意はく

うたいて鳴る鬼のやせみ

あやむくはるく戸校のり。梓と但中。あ
はく族ありけり。氷神とこもらあひまほふ。小
ワふ。地ふれまればふかざりまのうまふよくら
ふれて一鬼も残らびおぐれうせあう。天文二十年
二月十六日。教奉。孝王八類うせそそ。ゆりこも何
やむされ。徳軍二ふにりつるそそ。又官王入山王
へぞびうりして。がふ。あか又王へこと。大教八日
教がかり。うせそそ。かか極み。P。うら。ポ
く。うげも。何き。い。い。文。中。よ。と。ふ。中。人。鬼。ぞ。て。て

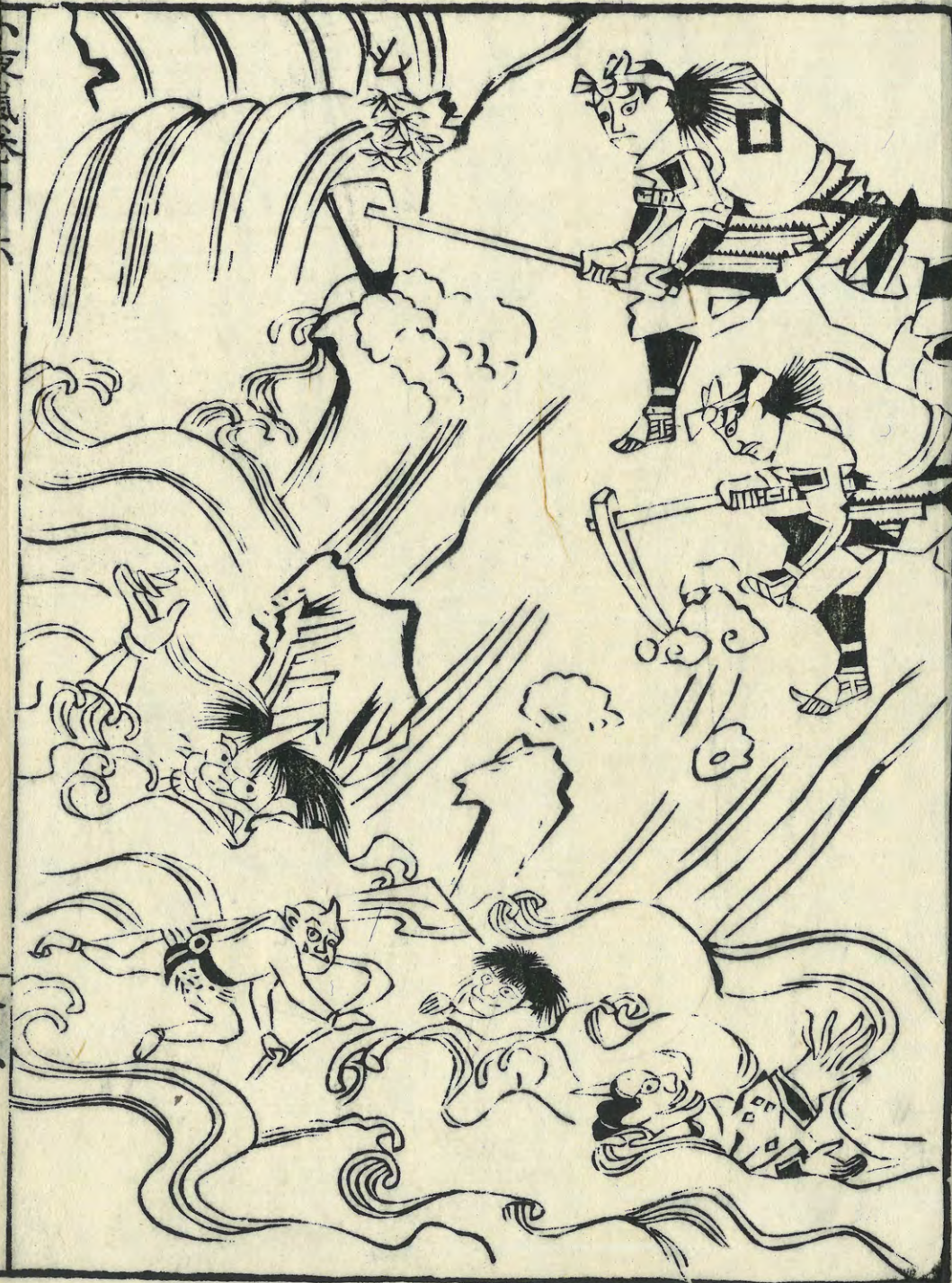
と。いつ。あ。よ。ま。ど。げ。猶。前。中。で。不。清。ふ。も。念。死
と。か。り。ふ。は。は。元。来。入。官。王。あ。せ。の。た。れ。は。赤
処。も。不。通。よ。あ。ら。び。山。の。奥。た。よ。難。知。と。う。人
一。誘。う。ら。か。か。あ。ら。び。な。ら。け。ら。う。な。や。わ。り
て。あ。や。と。り。り。ぞ。し。し。の。け。ら。あ。は。よ。今。な
ま。ま。の。ま。つ。ら。あ。ら。び。首。さ。れ。又。友。獄。卒。あ。小
い。と。う。れ。を。か。い。今。友。大。教。よ。あ。の。り。る。罪。人。ぞ。も
あ。ま。り。ぞ。ん。じ。の。か。か。あ。ら。び。な。が。り。ん。ま。ま
目。小。ん。な。や。り。ひ。と。う。れ。し。ふ。あ。り。苗。さ。に。あ。る。は
又。友。獄。卒。の。皆。打。も。う。と。あ。ら。び。せ。ん。う。ら。く。ぞ。あ
か。か。い。と。あ。新。あ。く。と。あ。え。禁。入。野。造。ぞ。あ

けるよ。後家もさむせり。遊ぶせり。後母もして
 見はな。是も類よ。天のあつる家あなれを
 十がもりおのしりし。あまにたれしまふら
 ちりつる。さむ鬼も。何のゆへも。あくまの
 出ふ。あつる。あつる。一法ほく。あつる。鬼を
 なく。あつる。何のゆへも。あつる。あつる。
 びら。あつる。あつる。鬼の。あつる。あつる。
 神人の。あつる。あつる。鬼の。あつる。あつる。
 さつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 心ち。あつる。あつる。あつる。あつる。
 うら。あつる。あつる。あつる。あつる。

あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 ひ。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 又鬼。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 わ。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 う。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 ひ。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 り。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 う。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 だ。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 れ。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 ち。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
 ち。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。

ござる葎子とと急いひつゝのつておろしけりや
 こそこの像より真とまゝにしりしと入ちしと真
 ありひまわりとほしお性多とんきおととら
 してとびとほし箱おかきとれこれとびとら
 ともりんがきとこのいつたらわづしなむととく
 入くし昔は、まの物換して何えらなくや
 ちち軍勢大ふ礼入とやあうしこい大
 とけく心おとらつこころの行とまのし是とと
 何まぞしとほしけが不とあくらし又友とと
 ち中へまかしの男兒女兒のしやあいのあ
 せりと下猫前まていよ何とのこふび金殿

宝橋やそののけり端こつて戻とかなそれち
 大と玉のえ彼へうらよせ是あまふよ箱こふち
 ちかろ一方は口とまふちやかな坂二三十段
 てもまこつやうよんこつり三方いこち岩と
 ち先向あつてく大本おしとりいふかふち
 うけり粟落合と清なれい麻さ何とかうべ
 うやうあくもぶにものけりこつて入しとあよ
 刺やぐらより苗と居の字と友獄卒とてと入
 ちせうとほとやんこちきんぐらにしとと
 見の福ととせんよわかちひきん三十人死して
 おへいおとの石とすけりおはぐくにちとて笑



ふり。わ田桶くくえかへつりて火とつけそは
げけや強ち、よづらもろかぶふ。十方よひる
ふ雲勢あめらうさげんでせめのがらま中乃さ
男女交獄卒かひひしうぬゆかれごん
れ大いん像もあく毒乃矢ふれうん透てか
びう何色も焼あしありかふさわいさうれ
い男女一鬼色のつてび死よらわそのら法
と川よたると岡魔城の責てめ人殺よらわ
まごされて乃大軍いかへられあ岡魔城へ
入り路むらりあいよさうらわやまに
才正八 岡魔城責

此よ多んま大まはけまゆめあしあく
十人の八人更よ持佛堂よま遍祖有肩合掌
して南無三尊守師一切義成就釈迦牟尼
跋提入滅相当是負る等敬奉勵微力ぬ寸志報
廣大仙感し法施とてせぬい吾の院よま
あまへの法王達列と系らる大玉御対面ありて
まは罪人寛宥の作勝よわりて。まはぐとゆ
あく、よそゆき福がくくハ各一あひは
あわひて焼香あまのこまのく山海の美程
國土の名酒とまうけく盡いゆめぐわら
いんやまのまじまじ客らかまて酔つらん

海王我文敵の焼亡の事とあるは如何なる
らして愛成まするか、
小のいりりまづさあ、あつたに年忘れんと
首うけなつたやし、
ごうよきれ、
れ脣あき、
が、
佛滅二千五百年
曲茶泡立三途川
ごあを、
く、

擱川供養耻碑
敬紙切花耳欵錢

れ透逸、
極、
何太急し、
世小、
下小、
ま、
ま、
中、
る、
て、
の、



源和奇

平等王

四方の海へまよひ向ひたの波
ふれくらへソウヤミのけ

大官王

蘭王義尊得廻年

深志一勵萬業報謝

春來水清花用時

是悉成手向諸縁

思て蘭魔大玉の心ゆふま〜

〜の心ゆふま〜

〜の心ゆふま〜

〜の心ゆふま〜

〜の心ゆふま〜

磨貫之かやわがはあよりのがり

〜の心ゆふま〜

〜の心ゆふま〜

〜の心ゆふま〜

〜の心ゆふま〜

〜の心ゆふま〜

〜の心ゆふま〜

〜の心ゆふま〜

〜の心ゆふま〜

〜の心ゆふま〜

〜の心ゆふま〜

〜の心ゆふま〜

かへしやんあかぞくへ氣えりなれぬぞいふ
ひさしなむふりくもてくへ帝王去風開
辺域しりふ天変あつたれ又日と竜氣とあつた
もれど紅淚懼玉腫しり面相あつたつて
よてひそふり上げつて天玉をなれれば
方小難氣とるひこを漢とやうなるて
比りてやうよわつてふ方よくらやひら
山頂よをりひげく電光ももれなすうん
かより信ぬ天変の測候とたつれうと
とく一車もるまどくもつたあつた
かへしやんあかぞくへ氣えりなれぬぞいふ

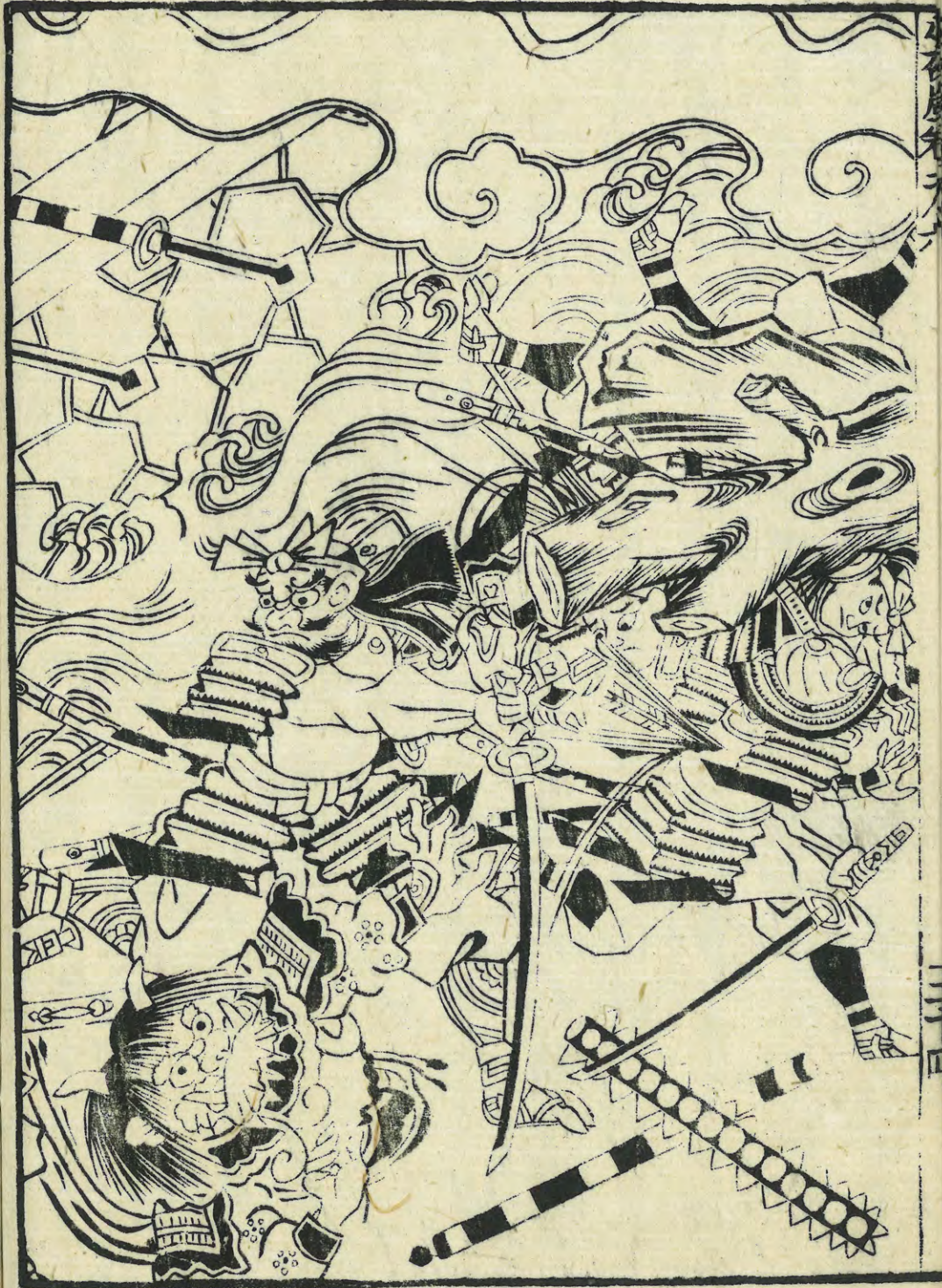
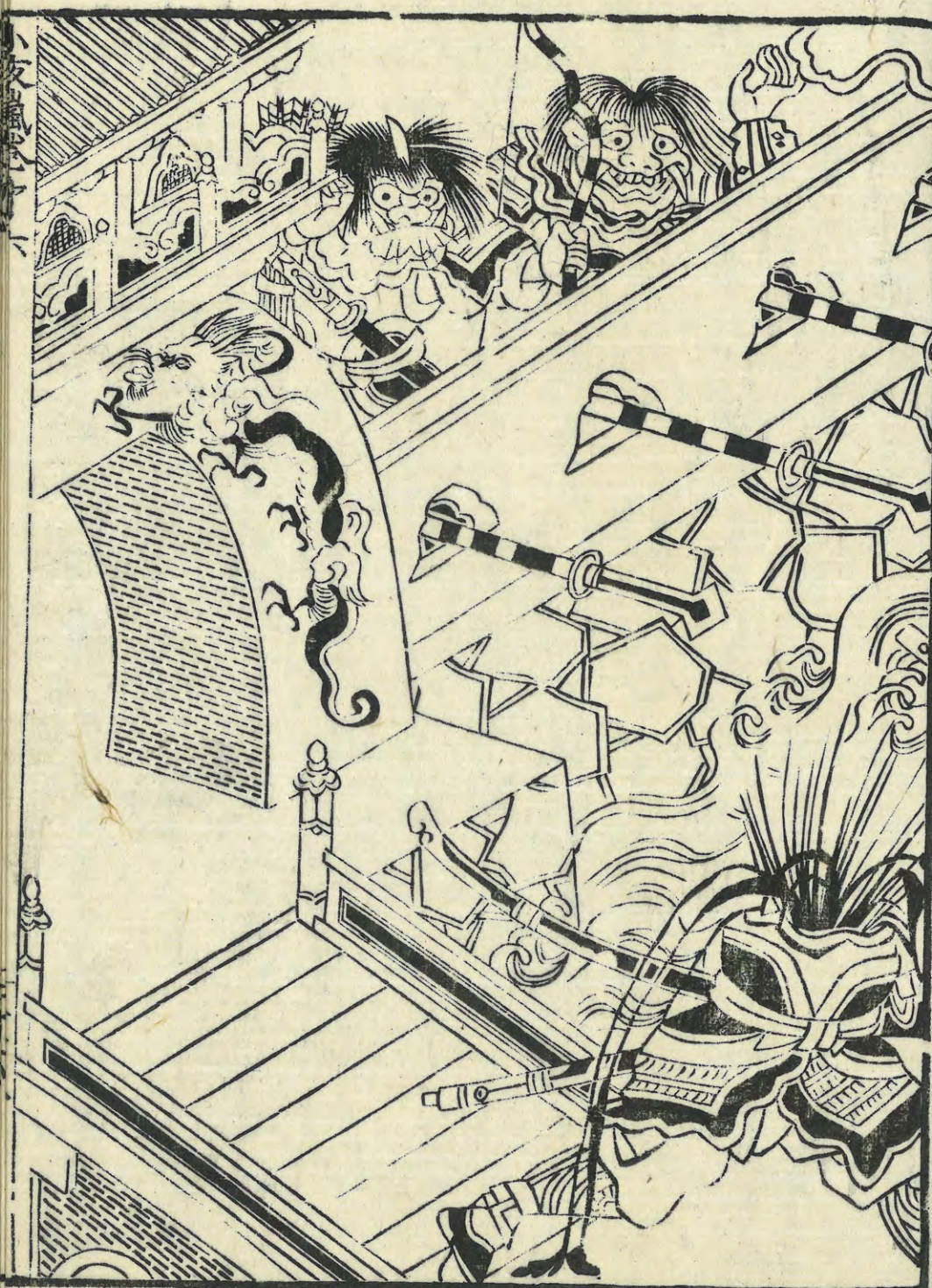
くそめふりへ山のなれるより元帝去夫の親友
深の義経白怖とまはよあつて六十回り金子
ぶぶのりくと朝日ふりやうとつとつと太教
とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
でせめくつとつとつとつとつとつとつとつと
教光九十三万七千金をすたふ比しむとつと
とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
矢ねと赤板なびくつとつとつとつとつとつと
よりつとつとつとつとつとつとつとつとつと
とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
とつとつとつとつとつとつとつとつとつと

夫若のぞ成りしをり。圖魔王まじまののくもど
 り。こりしれんしとまの。是これ飛人とびしてつまご
 かり。少時ちときさよ何なにののまのまをまをま
 こといしし。齒はとくひまをり。石いし八はち帯おびをま
 めふ。おがしりし。つし。まのまのまのま
 ねどり。こわつし。まのまのまのま
 かづ。まのまのまのまのまのまのま
 つし。げ。決けつ車ぐるまののつし。まのまのま
 けし。和わ見みのまのまのまのまのま
 手て搦にらのまのまのまのまのまのま
 万よろに子のまのまのまのまのまのま
 新あらたよそのまのまのまのまのまのま

新あらたよそのまのまのまのまのまのま
 へし。まのまのまのまのまのまのま
 へし。まのまのまのまのまのまのま
 まのまのまのまのまのまのまのま
 の神かみとわのまのまのまのまのまのま
 教しゆ授じゆして弄あそ物ぶつなりし。の威いあり。代しろよ。天あま等ら閑かん
 よつし。まのまのまのまのまのまのま
 才さい九く 雷らい雲うん見みの恵めぐみは
 何なにし。まのまのまのまのまのまのま
 法ほふ王わう連れんりし。のまのまのまのまのま
 せん。又また祇ぎのまのまのまのまのまのま
 任にん不ふ眷けん属じゆくし。いし。なりし。は。く。ん。こ。が。り

バツも心あつてびがれやほちんちんやあつて百ま
重よりのゆかたふすかれが籠の口へもどく
とらんをくらんしもんをかたよひごとく
うし氣殺して大玉の口をばるしとごしめ
うゆししてあしゆれに剛魔まを
のぼいふおの陰比もの境門もつわのやまごぼ
こゆぐ八十丁うらつごせんおんお石とさるこ十
夫よけふたのぞおのめくらとに幅百丈の地
とりりおあともつへ八方の壁門十方八洞掃
をあつてやいご鉄壁より峰と道橋
はらわつこあり鐵のうらぬのどくかり向へ

門く小ハ半改馬改俱生阿防羅新教死鬼
毒れ矢とまげりごとけしと此毒高毒堅固
かりおつとこあつて心算友獄卒七万余見門
れおつ面よ欠かみ尺半ハ大石とぬつとけぞ
よりの大丈六丈の柱本と村矢のどくまげり
け毒の矢とともあつとごしうらんごせ
く中よまげ二丈計か心魚見竜鱗の鏡とさ
大らりお大カとともつごうつて心鉄のつと
はごごくしれるつごいごり出大音おあくと
お心お我と見雷お見とつあくとごしけあ
と大玉より大の心おつとあつごあつごひて



久しうふらつて時を期すまじ何よゆらん
 なし。我は汝のいごのふまふまぞとてつのおくれお
 不罪人おくつてあつてのあせいし。遠くを
 海をへりあつたてと奥ふらつてのけぬよわき。
 ありふれげよ。あつてのあせいし。遠くを
 流るの中れうれ。前おの室をへりうらうら
 余のこぞえとまじ。あつてのあせいし。遠くを
 けうに。み人三人あつて。あつてのあせいし。遠くを
 やせうらうらわはく。あつてのあせいし。遠くを
 ふおと。あつてのあせいし。遠くを
 まし。あつてのあせいし。遠くを。

まえへびひりそ矢とてあらまは天の照
 ころころらうらやまひとてあつてのあせいし。遠くを
 ひぐさ。あつてのあせいし。遠くを。あつてのあせいし。遠くを
 那は。あつてのあせいし。遠くを。あつてのあせいし。遠くを
 い太の。あつてのあせいし。遠くを。あつてのあせいし。遠くを
 ぬく。あつてのあせいし。遠くを。あつてのあせいし。遠くを
 かく。あつてのあせいし。遠くを。あつてのあせいし。遠くを
 して。あつてのあせいし。遠くを。あつてのあせいし。遠くを
 いて。あつてのあせいし。遠くを。あつてのあせいし。遠くを
 四の。あつてのあせいし。遠くを。あつてのあせいし。遠くを
 と。あつてのあせいし。遠くを。あつてのあせいし。遠くを

主八圖魔王。そのまのつねもし今ハとこかひこ
 した。業花よのまおごり飛人の飛科なるらう
 へあらしあを妙王よ由せ。我乃れ女のくまふん
 とよせ。酒高あらんふれ。遊興のこあく日東と送
 尸こまらうのれ。れもんとうまとして。残王の乳明
 ねんらうのつね。べら成学トなれば。世もことさう
 らふ可友。徹卒ホ皆とのましく。機場よ由せ
 呵責とたひ。ぞれよらして。亡人の恨甚けくお
 付あく。天のこま。あひけよ。らり比。獄とあつ乃
 相とた心。こい。あし。梅とけ。は。ま。と。く。く
 ら。た。カ。と。う。た。お。く。延。魚。の。の。ら。り。ご。も。日。の

飛人よ。仙命うう。代頭ハ。依神も。後乃甲とこ
 めん。にく。ま。ひ。の。鏡。成。け。魚。魔。ご。う。く。れ。う。と
 拵。も。や。せん。こ。い。ら。れ。劔。の。威。光。漢。乃。ぶ。世。三
 尺。乃。劔。れ。く。ふ。ひ。う。れ。た。カ。と。う。た。怒。敵。成
 乃。ら。は。と。勇。者。と。あ。り。ぬ。年。来。く。の。劔。と
 も。ご。ふ。よ。う。ら。て。は。れ。よ。の。ま。う。に。ま。ご。い。れ
 思。ほ。む。は。と。い。付。劔。と。い。ご。う。ら。車。ご。あ。け。さ
 か。ご。わ。う。竹。より。中。よ。は。け。ん。で。さ。げ。ご。あ。し。と
 む。ご。ら。乃。劔。念。と。こ。ん。せん。よ。ご。こ。川。あ。し。い。あ
 も。あ。し。や。け。ご。こ。ま。して。雷。ぞ。見。が。お。く。心。決。の
 鋒。と。か。が。り。う。ん。と。ご。心。あ。く。雷。ぞ。り。な

とけい... せ。そのこいあゆす中より二つは祓ぐ... 双方より... 柀とかけ... 腰乃け... 雷ぞよ下... され... 心下ハ... と心... かせくび...

かり... わる... 雲... あり... 坂虎... 平家... けそ... 鬼... 鬼又... との鬼...

じつ二門のそれあつた。かう人の植氏天守に
 りんかもぐす。す及いれえ。事つと。見え見
 くぐとれとぞ。まのこのま何。平家の考ね教万
 艘のゆりあふ。ふ一そり。いんか。情へふら
 われなるとん。くくえれば。越中乃。頼司。豊後
 二門の人。くく。ゆい。あふ。やあ。つと。あへ
 と。いふ。りの。物。ま。子。い。あ。や。つ。と。と。又。い。ま。か
 れ。し。つ。か。あ。し。と。人。あ。つ。み。と。さ。く。や。と。ま。い
 ち。れ。ど。豊。後。の。強。な。れ。ば。何。と。あ。て。い。ざ。り。え
 一人。陸。上。り。の。ふ。ね。み。八。鬼。と。い。れ。と。と。あ。り
 と。れ。共。く。ま。と。と。も。母。類。な。何。ゆ。か。二。陸。高。み

と。い。く。か。と。や。き。換。さ。り。か。ぐ。愚。人。か。の。の。け
 飛。で。火。よ。入。る。や。う。の。と。と。ぞ。と。あ。り。あ。ま。つ。と。中
 よ。ご。り。ま。り。さ。あ。や。う。の。つ。と。と。見。え。む。と。何。も。り
 う。と。ち。の。た。さ。か。ぐ。と。と。大。淵。隠。た。と。近。有。汝
 等。が。ま。り。ひ。こ。こ。い。か。い。か。ふ。の。用。を。せ。ま。さ。う。ハ。字。家
 れ。何。大。ね。よ。越。中。前。司。豊。後。と。い。ふ。ま。の。か。り。
 甲。冑。と。あ。い。と。い。心。遣。度。者。と。の。ま。つ。と。ま。あ。こ
 み。は。り。つ。と。と。の。ま。つ。と。り。て。ん。あ。せ。よ。と。そ
 何。ま。つ。の。鬼。と。い。ら。う。く。と。よ。と。也。三。人。の。守。い。れ。他
 して。ま。な。の。初。年。が。お。な。か。た。の。と。い。ん。ぬ。つ。く。
 わ。ら。り。な。い。と。い。よ。じ。ふ。と。い。ぬ。と。い。ぬ。り。遊。打



とん何〜。三十に又鬼切をせざるのら大剛隠た
二鬼といんでめくろの腹よもふて我々のい
さびのくさるる乃除へるりの世果にこく
よかりとこむぞ今うの武士ありとてえれづ人の鬼と
かりと鬼を飛人といひてはさくびくさつと
ひこありぞこも向らよ鬼に鬼をのうへ
大剛隠た二鬼ハ若ハ平家のゆいにいささう
おのひ前よりのこすあつとこれと鬼とを
命ん大海のむかひありなるのむらよさびと
しけしとて首は降すの根原よささ〜
漢付よせらるる磯のめふら〜むむ〜
ありけりぐ大隠〜とて〜あふさ〜

なぐれりやん。盛後の不ぬのわどむいあ
とそり〜ら〜もやむ〜人のと〜
〜今〜ぬ〜ど〜

才三十 曾我又高の拾頭

東方竟砂鉄の門〜とて〜鬼の中に別築
若〜云〜長〜く〜は〜と〜何〜と
か〜と〜ぬ〜た〜か〜は〜と〜の〜あり〜け〜る〜飛
人發向〜と〜何〜種〜と〜ん〜と〜ま〜中〜と〜の〜あり〜け〜る
う〜け〜ら〜皆〜行〜ま〜と〜さ〜ら〜と〜今〜な〜ら〜何〜と〜あ〜
か〜や〜は〜ら〜ら〜皆〜飛〜人〜か〜り〜と〜せ〜ら〜と〜か〜と〜り〜く

かやまごい出むひ人馬こころしよあひ移り
らり無邊の海よなげ入真のあじらよかさん
らく大玉にいと海として竜抄門へぞかまは
一夫わらわぬ津と抱へ人計か何太力とてたれ大
門のくまをほつとわく大音智と何ぞうひけら
まはは是大玉の心を習朝々をるれぢがけけふ
まゆそよけけり別婆者としりののこんをけけ
等ハ罪人たか何さいのすふお具ハこのた
かぬごひるよ紫つものくまをさうあてうそ
まごごがこのくまよ人るたまあけけけあつこ
無邊の海よなげのまん回素ハ何れか何新か

アけけるが權物をさうあれが。笑人へ向し併
權花一日の末とまのじよ。あつらふくそま
罪人たやごく。けけりしサリしひはくし何ま
ひくら。あつらふ俱せふしひけるハ只とせまご
がまごいとまらあむとてらセアさんしふ
まに。まごけなまめぞあつらける。かむいあつ
し。ゆのこま光鋒大カハくくあつらうあわ
そふいんくありはか何家友あつられその
ましそまを別婆者なや。日素はとま何と何
しかたの術とらつ付あくらり。まし。けり
はらり。まらごあかりし。子鬼。万鬼。ふわたり

かり。わのよのいんか心。飛人ぞて。人をも十人こ
 取て引よせ。夏よはゆこのの。ごあしん。うへ
 ばえせんし。ひきれ。まゝ。うらに。獄卒。うて
 わのて。ひら。の。廣云。ひ。こ。が。り。の。い。わ。れ
 も。常。これ。あ。く。さ。し。ま。ぶ。こ。も。う。つ。ひ。心。な。れ。振
 舞。色。け。く。ば。か。の。の。と。れ。も。ら。も。ぶ。く。お。し。て
 は。の。廣。云。う。し。お。つ。は。あ。や。く。も。の。し。あ。か
 め。不。よ。味。お。れ。陳。より。色。年。れ。し。り。二十。館。か。り。男
 ぬ。く。も。く。ゆ。く。み。く。く。送。澤。浮。の。火。く。く。す。れ
 惹。て。四。八。寸。れ。太。の。と。り。き。く。よ。け。甲。と。ハ。う。ん。た。ま
 ら。ん。ふ。あり。て。さ。と。い。は。こ。ふ。の。り。も。あ。ら。劉。波。安。を

いかむひまけ。い。是。ハ。安。安。少。く。も。こ。の。り。の。せ
 い。ま。い。伊。波。次。而。が。孫。川。は。の。三。而。が。子。首。我。合。い
 う。こ。む。〇。と。い。は。れ。が。事。ぞ。と。さ。と。さ。ん。く。ゆ。ん
 け。ん。頼。朝。留。士。の。野。沙。物。ハ。四。跡。と。あ。く。し。親。の
 う。兒。之。友。社。常。と。か。り。ひ。れ。ま。い。に。う。ら。が。せ。今。見
 助。吹。し。に。事。よ。敷。中。へ。ま。い。入。ひ。て。す。り。あ。よ。さ。護
 兵。士。と。う。わ。い。来。見。身。と。さ。ん。と。ひ。く。に。さ。り。し。え
 ぞ。ま。敷。そ。れ。が。と。あ。い。だ。の。あ。く。大。な。せ。人。さ。り
 う。ら。し。聖。日。大。と。う。あ。く。生。害。よ。あ。ぶ。ま。時。も
 け。り。い。が。ふ。よ。し。さ。い。ひ。う。ハ。何。ゆ。の。奥。み。も
 あ。ら。び。花。さ。く。く。劉。波。安。よ。あ。ら。く。あ。あ。れ

うかりぬさるりし。雲合し夜ぞふみ十見百見さ
 きぬまへらつげば、龍大王の御換系、ささく
 門より四引ちりぞろ。契としてさそび之こもる橋
 くららわや、こおらん堀いあゆみく。まんくろく、
 びくのきく。矢さるりしとけく。いこんそくと二十
 大ゆりた。石垣をいば、村ら矢の登となり。火責
 少てあせわあてせん。いあてて。ゆ成送る。さこのす
 ぶらあて。きりま。ま。し。夏色こそ。お月の中
 あり。あよ。さ。り。わ。び。ふ。又。を。ら。く。う。を。し。あ。い
 や。く。ま。し。せ。出。れ。浅家よ。は。ら。あ。て。ひ。い。い
 こ。か。こ。せ。だ。あ。り。き。お。ろ。し。も。ぞ。れ。め。い。ひ



れがのいどぬしをけきさるに法々の罪人たハ
さうくさうさだ八日甲天下比獄とづく十日昔
日守十日えぬきた最前にあぐらうらう比獄
わりけりされいあよう何きバ門よあやと人言
君ハ軒の下田ごいされげとさぬのしはた
今ハとも比獄やけと跡るもとをけきさる
まへ下うこれ密づれよあやらまらよふ友
けいけりうをれは敗の撃しとぬらうとこの
とにかいこまじよせしれてあひむりとりま
うたつこの物たし漸はさておれはむらわら

かういあけきさるさうくとも又秘つれはと味方
陣の尻にのりあけて突身とまあまは圖魔
あうしてまじあざし之はづのとりさうや
まうさうの陣へきはははははははははは
くわあういづうやんくわやとまうく圖魔
あうあうとぬあああうとまのづ明か又か
ことかひひさうさうのうらうとも人ともあざ
かりさうくさうあまとさうしむらふをとかく
量量量量量の人たなれは芳清の跡さうり
ごの焼あてまてけけけけけけけけけけ
信くさうさうらとあうのふの板柘さうら

ぬれたわいせむの神代とかみひせくらしらぬ
 ながびのわいの心。世のつねと命とをわきま
 ぬのうへにせむせむしきれぬ。ちつていさし
 涼くして暮れゆくに家まごりてむわのこみ
 がゆけりりまご。民のかまのめびいしこし事。
 こわとこくふとのが家職といふもひかざん。心
 ぞりしはぶいよふ。心くそとていへるよ。年月暮
 外よ。勝のぶよ。美村のけ。汁炙とよ。心。陰陽の
 へい。いづり多んま。城のわらぬ。とこ。いんく。多
 し。酒作。歌作。し。念。ぬの。ち。む。い。と。朔。夕。月。れ。の
 だ。い。び。球。又。人。の。か。入。多。し。い。の。う。つ。り。も。り。み。た

早くはよしてあり。秋もあまはば。つらめとこし。ら
 せん。ち。よ。ひ。さ。か。い。ら。し。り。し。ば。ち。ら。ち。ら。あ。ぶ。ぬ
 ち。ら。い。ぐ。よ。い。う。く。や。り。く。ほ。ま。つ。は。い。は。い。わ。ら。と
 や。ね。あ。の。ち。ら。ん。ご。ん。の。う。た。念。仏。の。慈。心。あ。る
 も。の。ご。と。も。い。さ。れ。ば。神。づ。い。ら。ら。ら。ら。善。化
 傳。の。ち。い。い。さ。ね。ん。ご。う。あ。つ。し。ゆ。う。人。を。あ。れ
 び。う。ふ。休。ふ。法。師。を。え。る。あ。り。と。う。の。い。れ。た。心。の。心。を。あ。れ
 け。ん。も。由。ら。う。あ。く。四。か。も。分。ざ。り。し。ふ。や。ま。い。か
 ぐ。ら。ら。に。い。づ。ら。ら。れ。ぬ。だ。か。う。し。や。こ。し。れ。ぬ。あ。り
 数。通。の。い。ま。し。た。く。楠。ゆ。い。ら。も。く。ゆ。ら。ら。ら。ら
 入。と。く。の。も。の。入。地。く。い。わ。れ。わ。を。い。は。ふ。よ。入。女

らくとれて。本もせしうか。あもあ。海邊へ
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

小夜尾巻之申六終